

編集方針

「～北の大地とともに～北海道コカ・コーラボトリング株式会社CSRレポート2011」は、当社グループのCSR(Corporate Social Responsibility:企業の社会的責任)に対する取り組みをわかりやすく開示し、ステークホルダー(利害関係者)のみならずみなさまからご意見をいただき、北海道の明るい未来を形づくる持続可能な活動につなげることを目的に発行しています。

[対象期間]

2010年1月1日～2010年12月31日。実績データは2010年度、活動内容の一部は2011年度も含まれます。

[対象組織]

原則的にグループ連結会社を対象としています
(「グループ会社の概要」参照)。

[ご意見・ご感想]

今後の企業活動やレポートづくりの参考とさせていただくため、本レポートをお読みいただいたみなさまのご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

作成部署・連絡先

北海道コカ・コーラボトリング株式会社
〒004-8588
札幌市清田区清田一条一丁目2番1号
TEL(011)888-2135 [広報・CSR推進部]
ホームページアドレス
<http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/>

【CSRレポート バックナンバー】
バックナンバーは下記の当社ホームページでご覧いただけます。
<http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/company/csrreport.html>

ボクはクマグラ。
体長50cmにもなる日本最大のキツツキ。
シマフクロウとならんで北海道を象徴する
森の鳥なんだよ。
ボクが暮らすには食べ物豊富にある
広大な森林が必要で、
豊かな自然の証ともいえるんだ。
このレポートでは、
北海道コカ・コーラボトリンググループの
想いを伝えるナビゲーターとして
活躍してるよ。




北の大地とともに CSRレポート 2011



CSRレポート2009



CSRレポート2010

 **北海道コカ・コーラボトリング株式会社** (コカ・コーラ指定会社)
〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号
TEL(011)888-2135(広報・CSR推進部)
ホームページアドレス <http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/>
COCA-COLA、コカ・コーラ、GEORGIA、ジョージア、I LOHAS、いろは・す、FANTA、ファンタ、Minute Maid、ミニッツメイドは The Coca-Cola Companyの商標です。

2011年3月発行

次回は2012年3月の発行予定です。

北海道コカ・コーラボトリング株式会社





CONTENTS

02P	[コカ・コーラシステム概要]	
03P	[トップ・コミットメント]	北海道に生まれ、北海道に育てられた道産子企業です
<hr/>		
05P	[巻頭特集]	北海道コカ・コーラボトリンググループの歩んだ軌跡
07P	[製品製造方針]	持続可能な企業活動を目指して
<hr/>		
環境		
09P	[水とともに]	北海道の豊かで美しい水の循環を守るために
11P	[地域とともに]	子どもたちとの環境コミュニケーション
13P	[環境への取組]	環境負荷低減のために
15P	[環境への取組]	効率的なエネルギー使用に向けて
<hr/>		
市場		
17P	[安全な製品]	安全で安心な製品をお客さまへ
<hr/>		
社会		
19P	[地域への応援]	地域に一番近い企業を目指して
21P	[地域への応援]	アクティブで健康的な生活を応援
23P	[行政との連携]	地域の安全・安心を守るために
25P	[行政との連携]	全道に広がる、安全と安心のネットワーク
<hr/>		
職場		
27P	[ガバナンス]	よりよい職場を目指して
<hr/>		
29P	[工場見学]	安全・安心な「コカ・コーラ社製品のできるまで」を是非ご見学ください
30P	[プロフィール]	

当社製品のご紹介

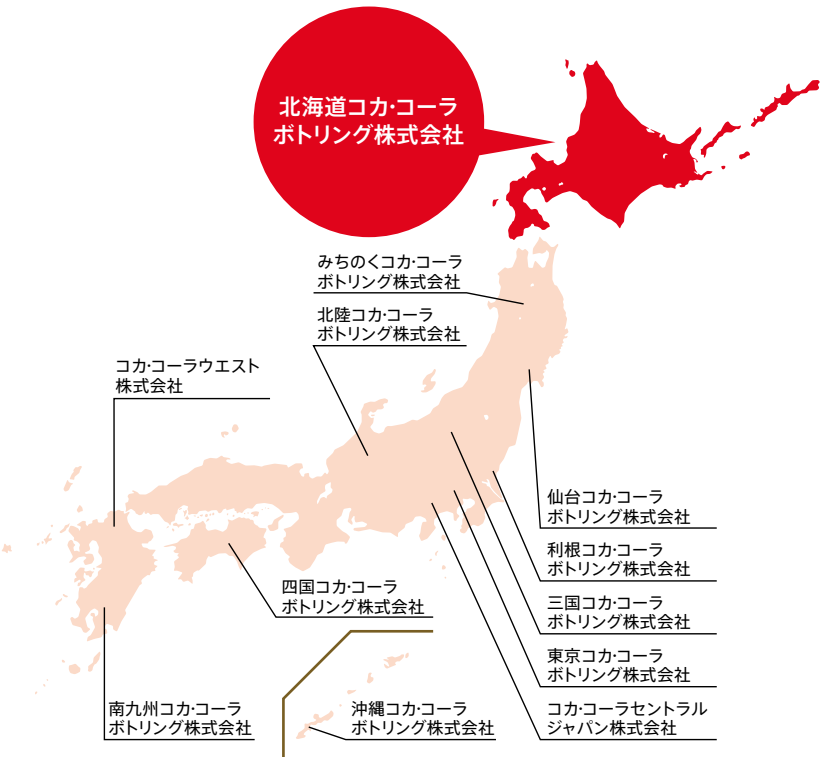
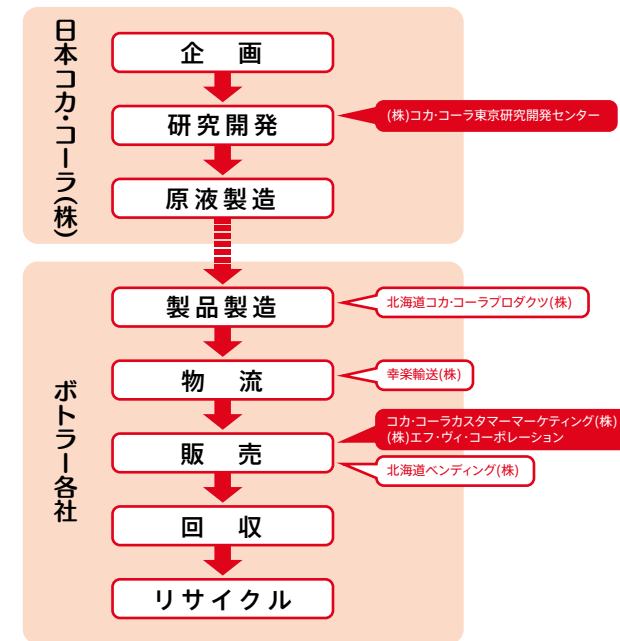


地産地消の取り組み

札幌工場(札幌市清田区)では、北海道の良質な砂糖やミルク、地元の美味しい水を使用して「地産地消」を応援しています。



コカ・コーラシステム概要



環境問題や健康意識の高まりなどによって、私たちコカ・コーラシステムをとりまく事業環境は大きく変化しています。私たちコカ・コーラシステムがこれからも成長し続けていくために、全世界共通の事業指針である「Live Positively (リブ・ポジティブリー) -世界をプラスにまわそう-」を2009年より導入しています。

環境

- 地球の温暖化防止・エネルギー削減
- 容器の軽量化・空容器回収・リサイクル
- 水資源保護

市場

- 安全な製品の提供
- あらゆる人々のニーズに応える製品価値の提供
- 消費者のアクティブで健康的な生活のサポート

社会

- 地域社会への貢献

職場

- 安全かつ魅力ある職場環境づくり

北海道に生まれ、 育てられた道産子企業です

経営理念

私たちは、21世紀の創発的な社会に貢献する。

経営指針

私たちは、

1. 生活者やパートナーに「さわやかさと潤い」を提供します。
2. 生活者やパートナーとの共存共栄を図るとともに地域社会に貢献します。
3. 変革にチャレンジし、活力ある創発的な企業グループをつくります。

社員行動規準

- ・私たちは、常に「さわやかさと潤い」を届けます。
- ・私たちは、生活者やパートナーとのコミュニケーションを大切にします。
- ・私たちは、一人ひとりがさわやかな存在になります。
- ・私たちは、時代の変化に適応し変革を起こし続けます。
- ・私たちは、「環境に、地域に優しい」企業活動を実践します。
- ・私たちは、良き「企業市民」として社会に貢献します。

中期経営計画

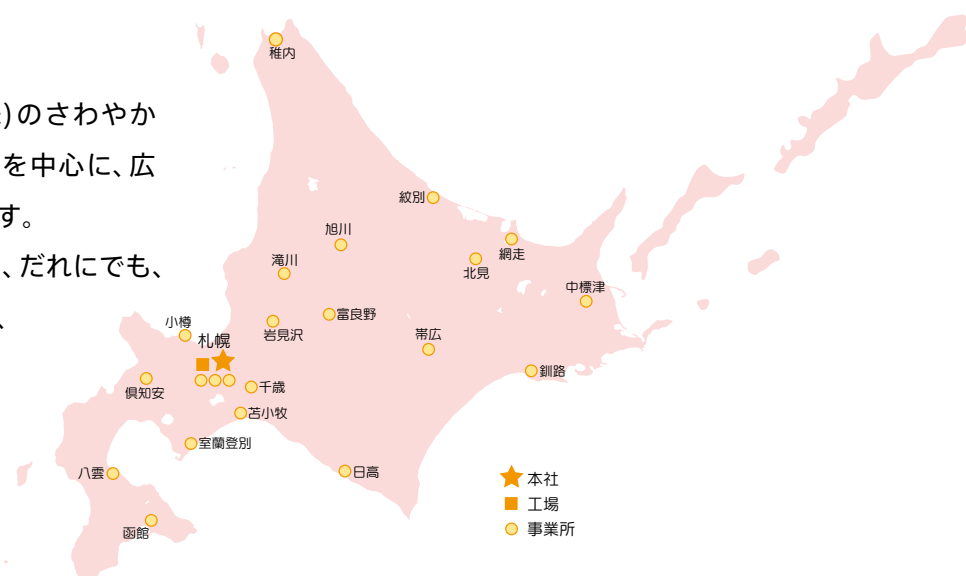
Restart 2009～北の大地とともに～

『私たち北海道コカ・コーラボトリンググループは、収益力の強い経営基盤を確立し、北海道の魅力さをさらに高める活動を、継続的に実行します』

さわやかさのネットワーク

北海道コカ・コーラボトリング(株)のさわやかさのネットワークは、札幌の本社を中心に、広く全道各地へ拠点網を有しています。

この北海道で、いつでも、どこでも、だれにでも、変わらない味をお届けできるのも、地域に密着したネットワークがあるからこそ可能なのです。



ごあいさつ

私たち北海道コカ・コーラボトリング株式会社ならびにグループ各社は、「北の大地とともに」成長することを願い、道産子企業として、地域やパートナーのみなさまとの「対話」を大切に、北海道の魅力さをさらに高める活動を継続的に実行することで、北海道で生活されるみなさまや北海道を訪れるみなさまから信頼され、選ばれる企業グループとなることを目指しています。



私たちは、北海道の広大な大地に育まれたおいしい「水」と、北海道で生産された良質な砂糖やミルクなどを原材料に、北海道にある工場で、清涼飲料水各種を製造して、事業活動を展開しています。

私たちが果たすべき役割は、みなさまに、安全・安心かつフレッシュな製品を、「いつでも、どこでも、だれにでも」ご提供することを基本として、北海道の大切な「水」を守るために環境にかかわる活動に精一杯の努力をし、これまで以上に北海道のお役に立てる活動をしていくことと考えています。

そのためにも、社員一人ひとりが、自分のやるべきことをしっかりと見定め、いきいきと働きながら成長できる職場環境を整えることが重要だと思っています。

これからも、北海道に生まれ、北海道に育てられた道産子企業として、このすばらしい北海道の魅力をしっかりと次世代に受け継ぐことのできる「持続可能な社会」を目指して、積極的な活動を続けていきたいと考えています。

このレポートをお読みいただき、当社グループの考え方や活動に対して、より多くの方々のご理解をいただき、ご意見やご協力をいただければ幸いです。

代表取締役会長

角野中原
Kakuno Chugen

代表取締役社長

矢吹健次
Yabuki Taketsugu

北海道コカ・コーラボトリンググループの歩んだ軌跡



1886年 アメリカ ジョージア州アトランタで、薬剤師のジョン・S・ペンバートン博士がコカ・コーラを発明しました。

私たち北海道コカ・コーラボトリング株式会社の創立は1963年。以来、半世紀近く、北海道のみなさまに温かく見守られ、育てられてきました。私たちはこれからも人や地域社会、そして自然環境に「さわやかさと潤い」をお届けしていきます。



2002年 電子マネー自動販売機



2005年 自動販売機に住所表示スタート



北の森レストラン EARTH
北海きたえーる内で、「夢を創るレストラン」をコンセプトに「北の森レストラン EARTH」をオープンしました

1960

1886年(明治19年) ジョン・S・ペンバートン博士が「コカ・コーラ」を発明
1957年(昭和32年) 日本コカ・コーラ株式会社で「コカ・コーラ」の製造開始
1963年(昭和38年) 北海道飲料株式会社として設立

1963年(昭和38年) 「コカ・コーラ」および「ファンタ」の販売を開始

1966年(昭和41年) 高円宮杯全日本中学校英語弁論大会を協賛

1968年(昭和43年) 「コカ・コーラ」ホームサイズ(500ml)の販売を開始

1973年(昭和48年) 札幌工場竣工

1976年(昭和51年) 株式会社東京証券取引所第二部および札幌証券取引所に上場

1977年(昭和52年) 東北満鉄株式会社と合併、株式の額面金額を変更

1978年(昭和53年) 冬季オリンピック札幌大会に全面協賛、支援

1980年(昭和55年) 「ジョージア」の販売を開始

1983年(昭和58年) スポーツ飲料「アクエリアス」の販売を開始

1984年(昭和59年) 機能性飲料「リアルゴールド」の販売を開始

1985年(昭和60年) 社団法人全国肢体不自由児者・父母の会連合会を応援

1991年(平成3年) 「カナダドライジンジャーエール」の販売を開始

1992年(平成4年) ティー飲料「紅茶花伝」の販売を開始

1994年(平成6年) ティー飲料「爽健美茶」の販売を開始

1999年(平成11年) YOSAKOIソーラン祭り「コカ・コーラ札幌国際大学チーム」として参加

2002年(平成14年) 日韓共催のサッカーワールドカップに全面協賛、支援

2003年(平成15年) 大型立体自動倉庫稼働

2005年(平成17年) コンサドーレ札幌とスポンサー契約を締結

2006年(平成18年) ノンフロン型自動販売機の導入

2007年(平成19年) 「コカ・コーラ」生誕120周年

2008年(平成20年) 「ミネラルウォーター「いろはす」の販売を開始

2009年(平成21年) 「北海道洞爺湖サミット開催」

2010年(平成22年) 「コカ・コーラ」生誕125周年

2011年(平成23年) Qooが札幌市食育大使に就任

2012年(平成24年) フラントホテルの導入

2013年(平成25年) 北海道e-水プロジェクトスタート

2014年(平成26年) 札幌市、清田区と「まちづくりパートナー協定」を締結

2015年(平成27年) 「雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス」オープン

2016年(平成28年) ミネラルウォーター「いろはす」の販売を開始

2017年(平成29年) 「北海道洞爺湖サミット開催」

2018年(平成30年) 「ミネッツメイド大人の贅沢ぶどう」の販売を開始

2019年(平成31年) 札幌市円山動物園に「ネイチャーカフェ・アース」を出店

2020年(令和2年) 「コカ・コーラ」ゼロの販売を開始

2021年(令和3年) 北海道日本ハムファイターズとスポンサー契約を締結

2022年(令和4年) ISO9001認証取得

2023年(令和5年) 「ジョージアサントスプレミアム」の売上の一部を北海道に寄付

2024年(令和6年) 知床世界自然遺産の環境保全活動を応援

2025年(令和7年) グループ会社の幸楽輸送(株)でグリーン経営認証を取得

2026年(令和8年) グループ会社の幸楽輸送(株)で安全性優良事業所のGマークを取得

2027年(令和9年) 防災協力自動販売機の取り組みをスタート

2028年(令和10年) おしらせ道なつとスタート

2029年(令和11年) 北海道と防災協定を締結

2030年(令和12年) 子どもの安全を見守る運動スタート

2031年(令和13年) ノンフロン型自動販売機の導入

2032年(令和14年) 自動販売機の住所表示スタート

2033年(令和15年) コンサドーレ札幌とスポンサー契約を締結

2034年(令和16年) 本社新工場(道内初の無菌充填工場)が竣工

2035年(令和17年) 2003年(平成15年) 大型立体自動倉庫稼働

2036年(令和18年) 2005年(平成17年) ノンフロン型自動販売機の導入

2037年(令和19年) 2007年(平成19年) 「コカ・コーラ」生誕120周年



1963年 創業当時のルートカー

1894年 ミシシッピ州ヴィックスバーグで、びん詰めのコカ・コーラが初めて製造されました。(現在のかたちにつながるボトルが登場したのは1915年)



1919年 輸入品として日本へ

現在の工場見学
工場見学はガラス張りになっており、厳しい品質管理のもと、安全・安心な製品ができる工程を見ることができます。迫力ある大型立体自動倉庫やビデオ上映でコカ・コーラ社製品を身近に感じることができます。



福祉施設へのプレゼント
1968年より毎年道内の福祉施設に、クリスマスプレゼントとして当社製品を寄贈しています。



1966年 ホームサイズの販売を開始



1972年 冬季オリンピック札幌大会に全面協賛



1975年 ジョージアの販売を開始



子どもの安全を見守る運動
当社が北海道に提案した、「子どもの安全を見守る運動」が、道民運動になりました。



ネイチャーカフェ・アース
札幌市円山動物園と「環境協働事業に関する協定」を締結。園内に「ネイチャーカフェ・アース」をオープンし、地元産食材のメニューなどを提供しています。



知床世界自然遺産を応援
斜里町・羅臼町内に設置している自動販売機の売上の一部を通じて、知床の環境保全活動を応援しています。





KORE

Coca-Cola(KO*) コカ・コーラ オペレーティング リクワイアメント OPERATING REQUIREMENTS

*「KO」は、ニューヨーク証券取引所に上場しているコカ・コーラカンパニーの略称です。

マネジメントシステム「KORE」

コカ・コーラシステムは世界共通で「KORE (Coca-Cola Operating Requirements)」と呼ばれる独自のマネジメントシステムでオペレーション管理を行っています。「KORE」は原材料の調達から製造、物流・輸送、販売を経てお客さまに製品が届くまでの過程における「品質」「食品安全」「環境」および「労働安全衛生」に関する基準を網羅したシステムで、国際規格であるISOや各種法令の要求事項を満たしつつ、さらに厳しい基準を自らに課す内容となっています*。

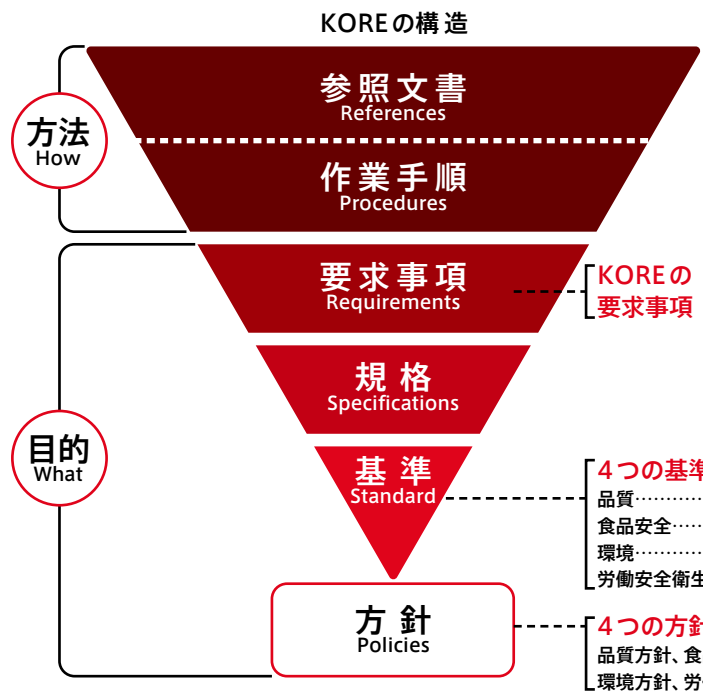
各項目の要求事項に対して実際のパフォーマンス状況の測定が審査登録機関によって少なくとも年1回行われています。社外第三者からの客観的評価が加わることで、コカ・コーラシステムにおけるマネジメントシステムの公明・公正な運用が保証されています。

*「品質」に関してはISO9001に、「食品安全」はFSSC22000に、「環境」はISO14001に、「労働安全衛生」はOHSAS18001に主として準拠。

○構造と特徴

- >> 4つの側面をカバー
品質、食品安全、環境、労働安全衛生
- >> 国際規格のISO、各種法令+αの厳しい基準
- >> 大きく2つの階層に分かれる

- 目的 What 「方針」「基準」「規格」「要求事項」
~しなければならないこと。
- 方法 How 「作業手順」「参照文書(手引き)」
目的を達成するための方法。



環境方針

環境理念

北海道コカ・コーラボトリンググループは、責任ある企業市民として、地球環境の保全に配慮した事業活動を行い、地域社会の豊かな環境の維持と社会の継続的な発展に貢献します。

環境行動指針

- 省エネルギー、省資源に努め、環境負荷を低減します。
- 事業活動に伴う廃棄物の削減と再資源化を促進するとともに、汚染の予防に努めます。
- 環境保全に対する全従業員の意識向上を図り、グループをあげて環境保全活動に取り組みます。
- 地域社会における環境保全活動への協力・支援を推進します。
- 環境に配慮した物品の購入を促進します。
- 環境関連法規制、コカ・コーラシステムが定める基準及びその他の要求事項を遵守します。

2009年7月1日制定

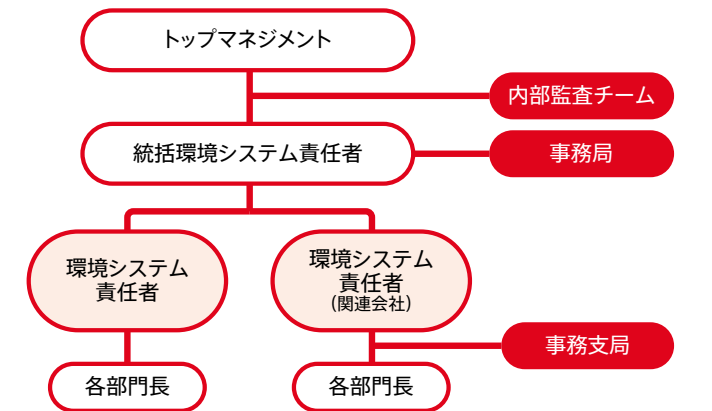
ISO14001認証取得

2010年2月、本社敷地内に所在する、当社グループの各事業所で、環境マネジメントシステムの国際標準規格である[ISO14001:2004]を認証取得しました。組織として決定した環境方針のもとで、事業活動・製品及びサービスが環境に与える影響を把握・評価・是正し、継続的に改善していくことによって、省資源・省エネルギーをはじめとする環境負荷の低減に努めていきます。また、廃棄物の削減、再資源化の促進、汚染の予防、そして環境保全に対する全従業員の意識向上などに積極的に取り組んでいきます。

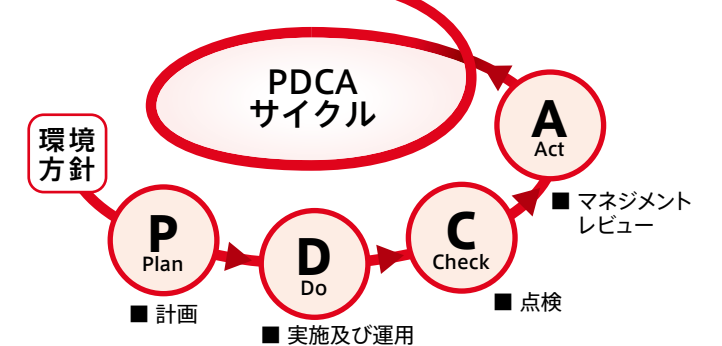


ISO14001:2004認証

ISO14001における環境保全推進体制



継続的改善



北海道の豊かで美しい 水の循環を守るために

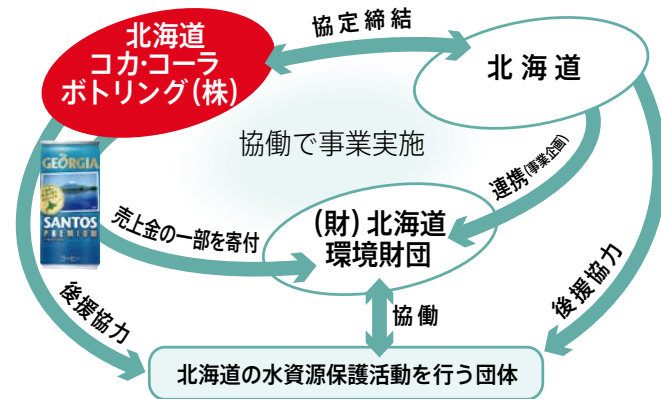


北海道e-水プロジェクトを推進

北海道の豊かで美しい「水」を守り、未来へと引き継いでいく「北海道e-水(イミズ)プロジェクト」を、2010年より北海道および(財)北海道環境財団との間で推進しています。



ジョージアサントスプレミアム
の売上の一部を寄付



2010年11月、助成を受けた7団体の活動報告が行われ、一年間の成果や来年度の課題などについて発表を行いました。今後も「北海道e-水プロ



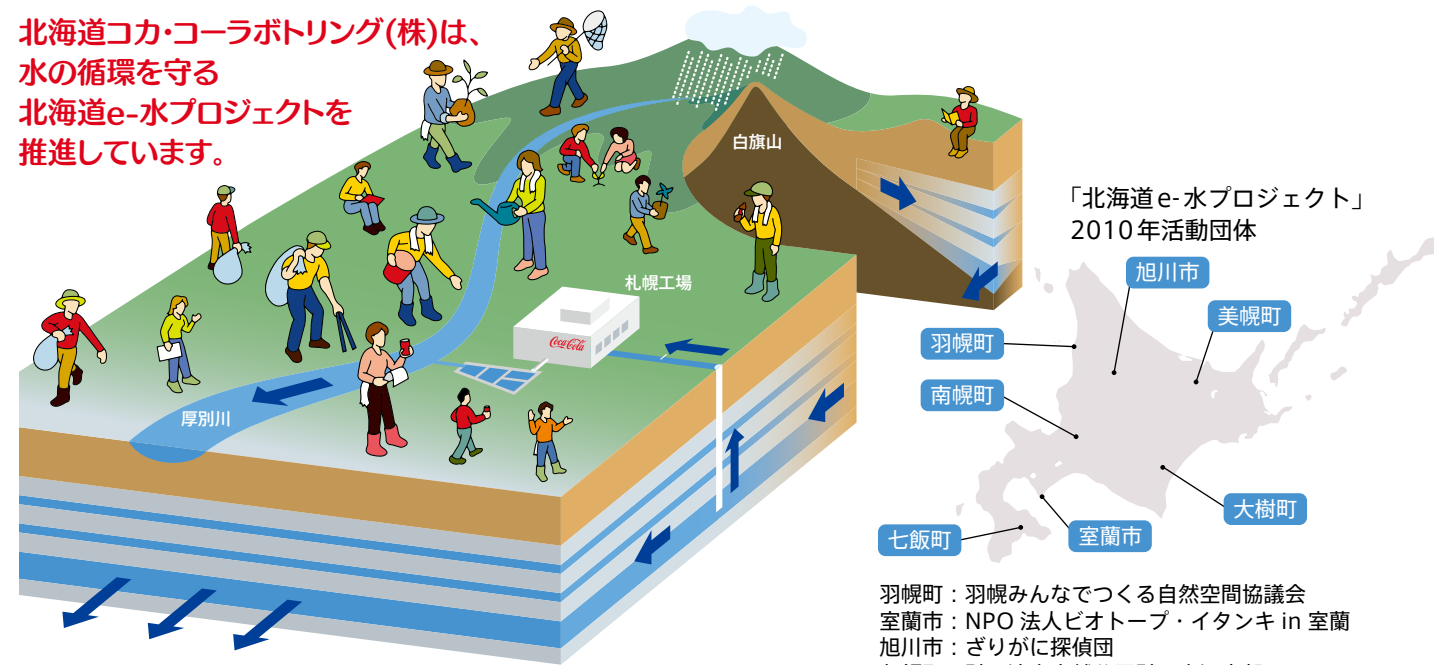
大沼公園の美化活動(七飯町)

ジェクト」は継続して活動団体を公募し、北海道の環境保全活動を応援していきます。



ウチガザリガニの生息調査(美幌町)

北海道コカ・コーラボトリング(株)は、水の循環を守る北海道e-水プロジェクトを推進しています。



「北海道e-水プロジェクト」
2010年活動団体

- 旭川市
- 美幌町
- 大樹町
- 室蘭市
- 七飯町
- 南幌町
- 羽幌町

- 羽幌町：羽幌みんなで作る自然空間協議会
- 室蘭市：NPO 法人ピオトープ・イタンキ in 室蘭
- 旭川市：ざりがに探偵団
- 七飯町：財団法人自然公園財団大沼支部
- 南幌町：NPO 法人ふらっと南幌
- 大樹町：歴舟川の清流を守る会
- 美幌町：美幌町郷土史研究会

北海道生まれのおいしい天然水「い・ろ・は・す」

「い・ろ・は・す (ILOHAS)」は、札幌工場(札幌市清田区)で採水された地元北海道のおいしい天然水※1)です。地産地消による輸送エネルギーの低減をはじめ、国内最軽量12g※2)で、飲用後には軽い力でコンパクトに絞ることができる※3)PETボトル「ecoるボトルしぼる」の採用など、環境にも配慮しています。

また、コカ・コーラシステムは「水資源管理プロジェクト Water Stewardship(ウォーター・スチュワードシップ)」のもと、工場の水源を特定し、水資源の保護を行う



「Source Water Protection(ソース・ウォーター・プロテクション)」を推進しています。北海道では、今後、札幌工場の水源である清田区白旗山の植樹活動に取り組んでいきます。

※1) 北海道地域販売分
※2) 2010年12月末現在 日本コカ・コーラ(株)調べ
※3) 自治体の空容器の分別回収方法に従う

全道で環境出張授業を実施

未来を担う子どもたちに水資源について知ってもらうため、全道の公共施設や商業施設・児童会館で環境出張授業「もっと知ろう!水のこと。」を実施しています。授業では、国内外の水の飲み比べをはじめ、空容器の分別体験、世界の水資源に関するクイズなどを通じて、水の大切さを考える機会を提供しています。



Voice 水、そして地球

本校は「総合的な学習の時間」の中で、地域から地球につながる活動を大切にしています。特に6年生は、清田のきれいな水をテーマに学習を進めています。「水、そして地球」の学習では、清田の地下水を生かして製品化を進めている北海道コカ・コーラボトリング株式会社の方に協力していただき、「水の授業」を受けています。清田の水を考えるとところから、子ども

札幌市立清田小学校
校長 白石 邦彦



たちは地球の水へと視野を広げていきます。さらに、コカ・コーラシステムで導入しているプラントボトルについて知り、地球環境についての学びを広げています。清田小学校の子どもたちは、地域に学び、地域の人とふれあうことで、地域のよさ、地域の人々の温かさを実感し成長しています。

子どもたちの 環境コミュニケーション

未来を担う子どもたちへ
ふるさとの自然をつなげます。



コカ・コーラ教育・環境財団

(財)コカ・コーラ教育・環境財団は、北海道栗山町とともに同町の廃校だった「雨煙別小学校」を、環境教育などを体験学習する宿泊型施設「雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス」として再生し、自然環境プログラムを展開しています。



また、同財団では、毎年地域の環境教育・保全団体を表彰し、その活動も応援しています。2010年8月に開催された「コカ・コーラ環境フォーラム」では全国で15団体がノミネートされ、北海道では、「北海道岩見沢農業高等学校」が次世代支援部門の優秀賞を受賞しました。



「わくわく体験ランド北海道」を開催

2006年より、北海道当別町道民の森にある「コカ・コーラの森」で、親子の植樹体験や、ネイチャー



ゲームを通して「自然とふれあうことの楽しさ」を体験する「わくわく体験ランド北海道」を5カ年計画で行ってきました。この5年間で参加者は延べ450人、植えた苗木は1,250本になります。この「コカ・コーラの森」を育てながら、2011年度からは、札幌工場の水源でもある清田区白旗山で植樹活動を行う予定です。

環境イベントに参加

「環境広場さっぽろ2010」をはじめ「はこだて・エコフェスタ2010」「はこだて国際科学祭2010」「帯広環境交流会」など、各地域の環境イベントやシンポジウムへ積極的に参加しています。



環境広場さっぽろ2010

2010年8月、函館市で「食の未来を函館から考える」をテーマに「はこだて国際科学祭」が開催され、当社は函館市を走る市電の車内で、水とPETボトルのヒミツを学ぶクイズを行いました。同年8月には、函館市緑の島で「はこだてエコフェスタ」が開催され、当社は、リターナブル壺製品を販売したほか、環境保全活動を紹介しました。



市電の車内で〇×クイズ (函館市)

猛禽類の自然復帰と繁殖を応援

2010年9月、札幌市円山動物園で「猛禽(もうきん)類野生復帰施設」のオープニング・セレモニーが行われました。この施設は、同園が取り組んでいる「北海道の野生動物復元プロジェクト」の一環で建設されたもので、道内で怪我をして保護された猛禽類(オオワシ・ト



オープニングセレモニー



保護されたトビ

ビ等)に飛行訓練などのリハビリを施したのち、野山に放鳥・野生復帰を実現するほか、独自の技術で繁殖・育成に取り組むものです。当社も寄付等を通じて本プロジェクトを応援しています。

旭山動物園で循環型農業

2010年5月、当社が旭川市と協定している「魅力的なまちづくりに関する基本協定」に基づき、学生主導による環境教育プログラム「つながる輪「いのち」」をスタートしました。これは旭山動物園内にある、当社寄贈の休憩施設「やすらぎの森」の隣に、新たに「循環型農園」を作り、そこで旭川実業高校の学生たち



秋の収穫祭



畑をたがやす学生たち

が動物たちの排泄物を堆肥に、有機野菜を栽培していくものです。そして、その栽培された野菜を自分たちや動物が食べることで、「いのち」のつながりを学習する「体験型環境プログラム」となっています。

環境負荷低減のために



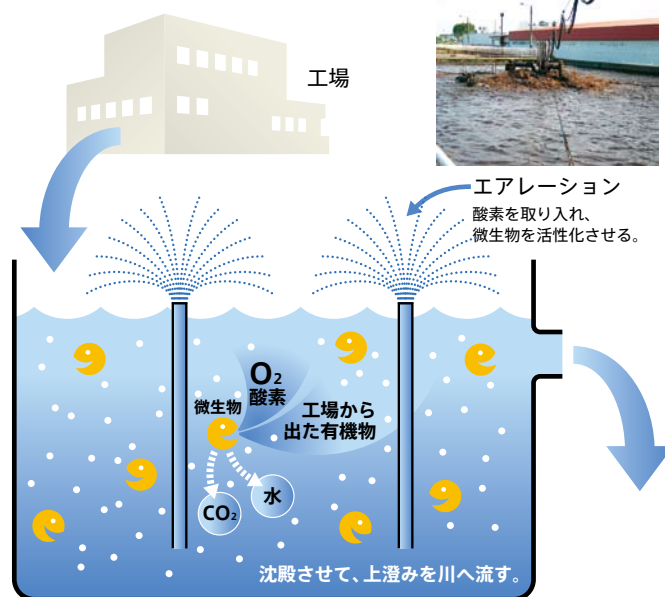
自然にやさしい排水処理システム

札幌工場では「ラグーン処理方式」と呼ばれる専用施設で排水を処理し、国の排水基準を遵守しています。これは微生物の自己浄化サイクルを利用した、余剰汚泥の発生量が少ない排水処理システムです。

ラグーンシステム



微生物は有機物を食べ、水と二酸化炭素に分解します。



COD, BOD 濃度 (単位: mg/ℓ)

	排水基準 許容限度(日間平均)	2008年 最大値(日間平均)	2009年 最大値(日間平均)	2010年 最大値(日間平均)
COD	160 (120)	14.6 (9.4)	17.9 (11.3)	13.5 (8.6)
BOD	160 (120)	4.7 (1.8)	9.1 (1.8)	3.6 (1.4)

※COD: 化学的酸素要求量
BOD: 生物学的酸素要求量

札幌工場は「ゼロエミッション」

札幌工場では、2000年より廃棄物の埋め立てと単純焼却処理を一掃し、すべてをリサイクルする「ゼロエミッション」活動に取り組み、2001年から目標を100%達成しております。

ゼロエミッションの内容

コーヒーかす・茶かす	肥料
紙類	再生紙、ダンボール
プラスチック類	再生プラスチック、固形燃料
金属類	再生金属
汚泥	セメント原料・肥料
ガラス類	ガラスびん
一般廃棄物	発電、暖房燃料

工場廃棄物排出量 (単位: t)

	2008年	2009年	2010年
コーヒーかす・茶かす	3,334	3,119	3,337
紙類	217	166	174
プラスチック類	116	136	125
金属類	95	92	98
汚泥	25	25	14
ガラス類	10	8	8
一般廃棄物 他	2	1	1
合計	3,799	3,546	3,758

※四捨五入のため、合計が合わない場合があります。

水使用量の削減

札幌工場では、容器の洗浄水、製品の殺菌工程からの回収水や冷却水などを循環利用し、約2,400m³/日(20時間稼働時)の節水を実現しています。

使用済み空容器のリサイクルを推進

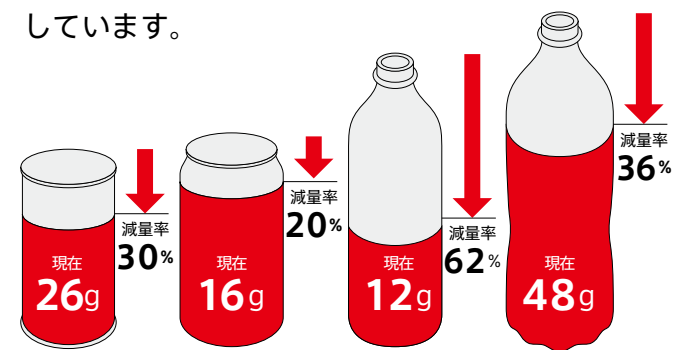
大切な資源である空容器の回収とリサイクルを推進しています。回収した空容器は、自社または専門の業者によりPET・アルミ・スチールなど材質別に分別され、再度資源として有効活用されます。

国内の容器別リサイクル率 (2009年度)

アルミ缶	93.4%	アルミ缶リサイクル協会
スチール缶	89.1%	スチール缶リサイクル協会
PET ボトル (回収率)	77.5%	PET ボトルリサイクル推進協議会
ガラスびん (カレット使用率)	74.2%	ガラスびんリサイクル促進協議会

サステナブル・パッケージ

コカ・コーラシステムでは、省資源化を目指して容器の軽量化を進めています。また、2010年3月より「い・ろ・は・ず (I LOHAS)」に植物由来の素材を一部(5~30%)使用した「プラントボトル™」を導入しています。



※555ml PETボトルは2010年12月末時点(日本コカ・コーラ(株)調べ)

グリーン調達・グリーン購入

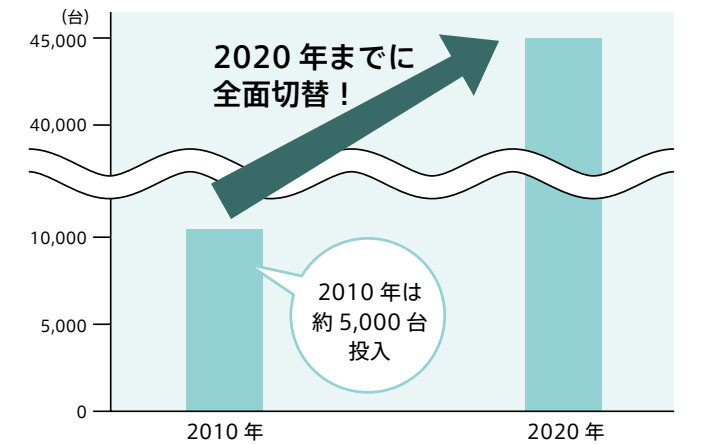
当社のユニホームには、PET再生繊維(ポリエステル)を多く使用しています。空容器回収ボックスは、PET・PE・PPなどの再生プラスチックを使用しています。また、文具・事務用品は、再生品など環境面に配慮された製品を購入しています。

環境にやさしい自動販売機

●ノンフロン・ヒートポンプ自動販売機

2005年から、フロンを使用しない自動販売機を段階的に導入し、2020年までに全面的に切り替えることを予定しています。また、効率的な加温・冷却による省エネを実現するヒートポンプ技術を使用した「ノンフロン・ヒートポンプ自動販売機」の導入を積極的に進めています。

北海道コカ・コーラボトリング(株)ノンフロン・ヒートポンプ自動販売機台数



●「ecoる/ソーラー」自動販売機

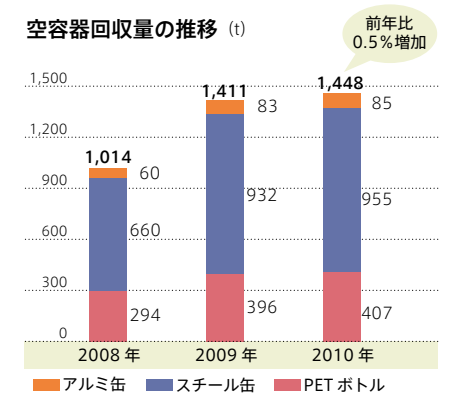
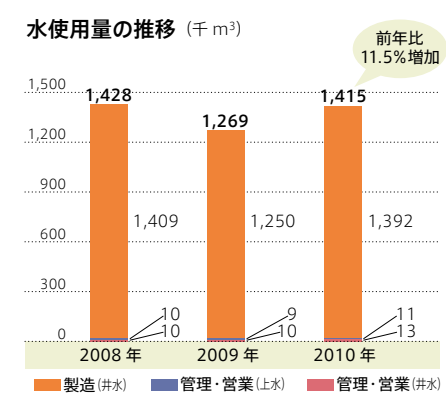
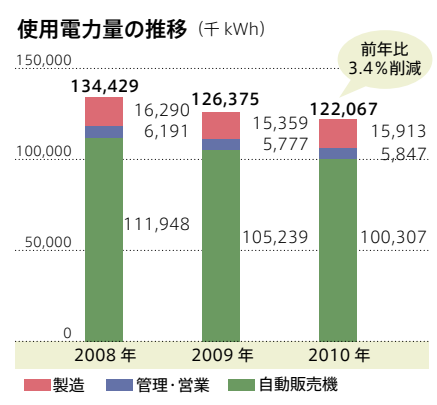
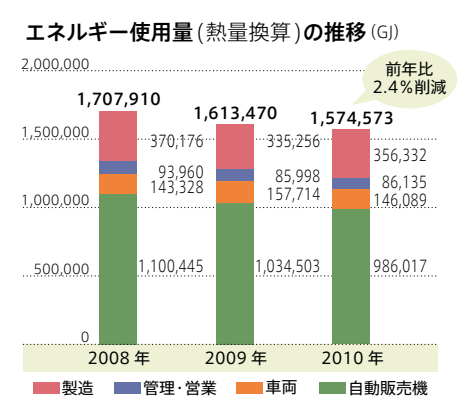
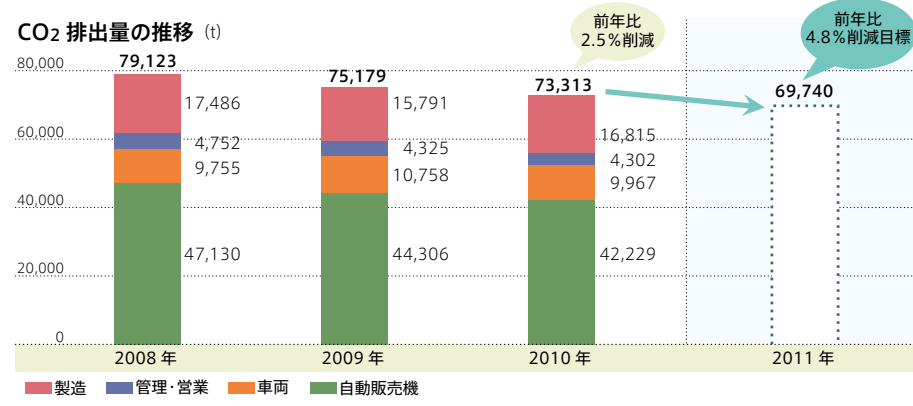
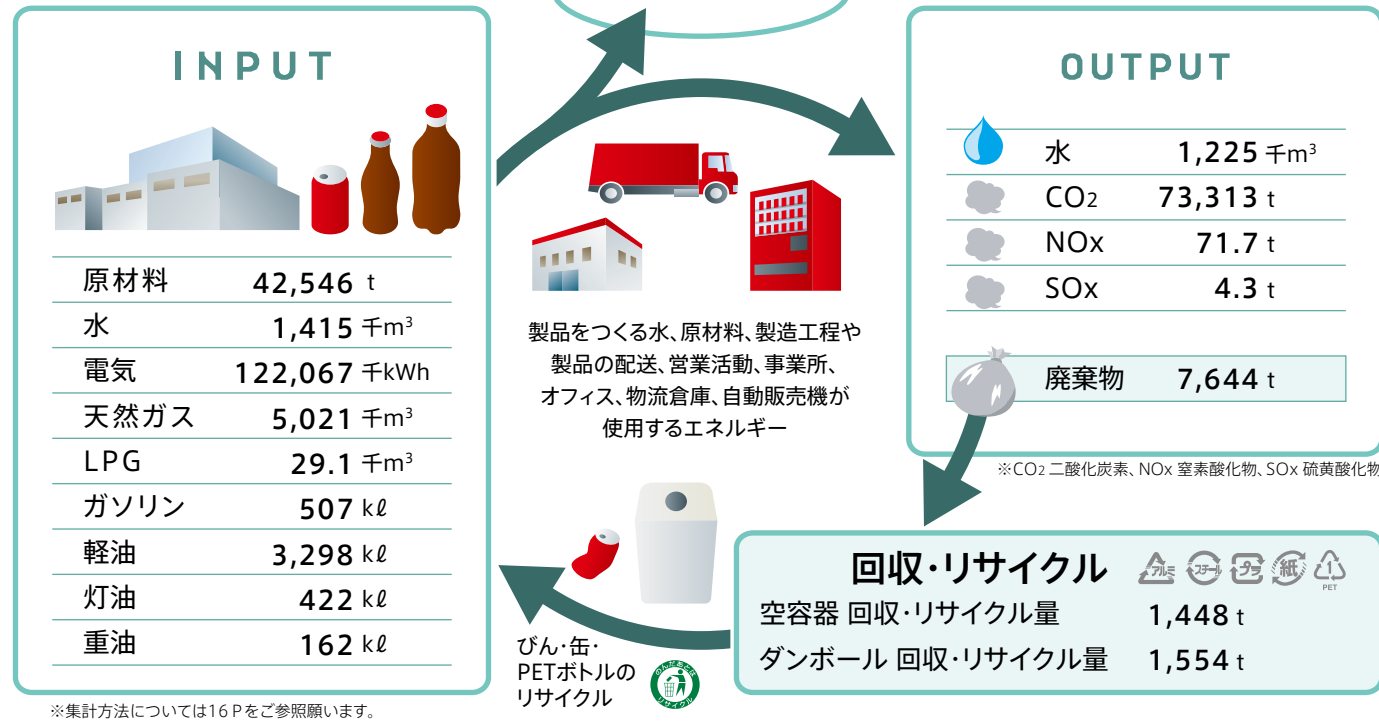
上部に搭載したソーラーパネルの蓄電により、夜間照明の消費電力量を全てカバーする「ecoる/ソーラー」自動販売機を展開しています。このほかノンフロン・ヒートポンプ機能を搭載、ディスプレイ部分にはLED照明を採用するなど環境に配慮しています。



効率的なエネルギー使用に向けて



マテリアルバランス



環境会計

2010年における当社環境保全活動の取り組み内容と結果を環境会計(環境省ガイドライン参考)で表しました。

環境保全コスト

札幌工場に、エネルギー使用の監視を強化するためのシステムを導入しました。またエアコンプレッサー等の設備に省エネ対策の投資を行いました。

項目	主な取り組みの内容	2008年		2009年		2010年	
		投資額	費用額	投資額	費用額	投資額	費用額
1. 事業エリア内コスト	計	22,618	137,827	23,164	121,473	13,545	117,832
(1) 公害防止コスト	工場排水処理 他		61,255	12,586	53,396	0	55,868
(2) 地球環境保全コスト	工場節水設備・省エネルギー設備 他	22,618	28,791	6,444	25,733	13,545	21,755
	自動販売機のフロン回収・破壊		16,136	0	11,023	0	9,064
	クリーンエネルギー車導入(天然ガス車・ハイブリッド車)		1,290	0	4,012	0	5,488
(3) 資源循環コスト	各事業所の廃棄物の処理・リサイクル		26,321	4,134	24,553	0	23,392
	自動販売機の処理・リサイクル		4,034	0	2,756	0	2,265
2. 上・下流コスト	計		74,519	0	121,163	0	119,038
	空容器の回収・リサイクル		27,209	0	30,079	0	24,526
	空容器回収ボックス・空容器回収用ポリ袋		46,943	0	43,404	0	47,640
	再商品化委託費 他		367	0	47,680	0	46,871
3. 管理活動コスト	計		35,613	0	37,833	0	35,375
	環境負荷の測定		25,367	0	25,685	0	26,943
	EMSシステム構築・運用、環境コミュニケーション		10,246	0	12,148	0	8,432
4. 社会活動コスト	計		17,221	0	16,791	0	16,993
	業界団体活動、環境支援活動 他		16,170	0	16,271	0	16,473
	本社構内緑化保守		1,051	0	520	0	520
合計		22,618	265,180	23,164	297,260	13,545	289,238

環境保全効果

札幌工場の生産量増加のため、NO_x排出量及び水使用量が増加しましたが、省エネ自動販売機の導入などにより、CO₂排出量、総エネルギー使用量を削減することができました。今後も、環境への負荷を低減するため、効果的な環境改善活動を継続します。

効果1 環境保全効果

項目	単位	2008年	2009年	2010年	対前年増減率(%)
		実績値	実績値	実績値	
総エネルギー(熱量換算)	Gj	1,707,910	1,613,470	1,574,573	-2.4%
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	79,123	75,179	73,313	-2.5%
NO _x 排出量	燃焼設備	7.6	6.6	7.1	6.3%
	車両	62.1	69.9	64.7	-7.5%
水使用量	m ³	1,428,472	1,269,213	1,415,407	11.5%

効果2 環境保全対策に伴う経済効果

内容	2008年	2009年	2010年
リサイクルにより得られた有価物の売却額(自動販売機、缶、PET、プラスチック、古紙等)	62,949	20,114	38,468

<集計方法について>
 ・CO₂は電力・燃料より、NO_x・SO_xは燃料より算出しています。(SO_xは排出量が微量であるため、環境保全効果の表中には記載していません。)
 ・燃料由来のCO₂排出量は、「地球温暖化対策推進法施行令」に基づく換算係数より算出しています。
 ・電力由来のCO₂排出量は、電気事業者連合会のCO₂排出原単位(2004年度)より算出しています。
 ・NO_x排出量は、環境省「環境活動評価プログラム」の排出係数より算出しています。
 ・CO₂排出量は、燃料の組成より理論値を用いて算出しています。
 ・車両の項目には、敷地内で使用するフォークリフト及び当社製品等を運搬している外部委託車両の燃料使用量を含めています。
 また、物流組織の変更により、2009年度から算出範囲が変更となっています。(道外移入など算出範囲が広がっています)

厳しいチェック体制が、
最高の品質を支えます。



全社で[ISO9001:2008]の認証を取得

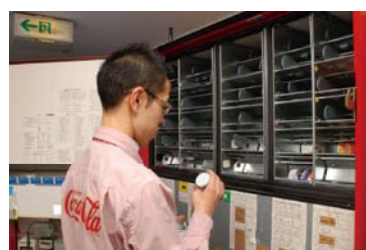
2007年2月、当社は全社（製造・販売・管理部門）を対象に、品質マネジメントシステムの国際規格[ISO9001:2000]の認証を取得し、2009年10月には[ISO9001:2008]への移行認証を受けました。今後も、グループ全員で経営品質を高めていく活動に取り組んでいきます。



ISO9001:2008認証

新鮮な製品をお届けするために

お客さまのお手元に届くまでの鮮度管理目標や製品取扱管理基準を設け、賞味期限切れや容器不良の防止に取り組んでいます。特に、自動販売機における賞味期限切れの防止については、自動販売機へ商品を装填する営業担当者が、適正本数の装填と補充時のチェック活動を行っています。そのほか、工場倉庫出荷から自動販売機へ装填されるまでの管理や在庫の適正化、缶ウォーマーの温度管理などのガイドラインを設定し、安全かつ高品質な製品とサービスの提供に努めています。



賞味期限のチェック

札幌工場の取り組み

札幌工場では、コカ・コーラシステムが、世界共通で導入している独自のマネジメントシステム「KORE」の4つの側面である、品質・食品安全・環境・労働安全衛生の観点から、製品の安全性を追求し、品質の向上を図っています。2010年には、食品安全

マネジメントシステムの認証規格である「FSSC22000:2010」を取得しました。また、安全・安心の品質を守るために、複数の検査士による味覚検査をはじめ、製造設備の徹底したメンテナンスの実施、さらに使用する水質の安全性の保証に努めています。

※「KORE」はISO9001（品質マネジメントシステム）、ISO22000（食品安全マネジメントシステム）、ISO14001（環境マネジメントシステム）、OHSAS18001（労働安全衛生マネジメントシステム）の基準が含まれています。



ISO10002への適合を宣言

私たちは、お客さまから寄せられるご指摘・ご提案・お問い合わせなどの声を大切にしています。

お客さまへの対応について、ご指摘（苦情）対応に関する国際規格[ISO10002]に適合していることを確認し、2007年8月に適合を宣言しました。

Voice KOREで食品安全精度向上



北海道コカ・コーラプロダクツ(株)
取締役 札幌工場長 伊藤 春男

KOREシステム導入にあたり、2010年から札幌工場では食品安全に関わる「FSSC22000:2010」の構築・認証を取得し、2011年1月から運用開始しました。

もの造りの原点としての位置付けはもちろんのこと、生産に関する全ての側面について、検証及び妥当性の確認を現場が自ら実行していくことで、管理精度に厚みを持たせ、食品安全を確保し、お客さまに安心して飲んでいただける製品をお届けしていきます。

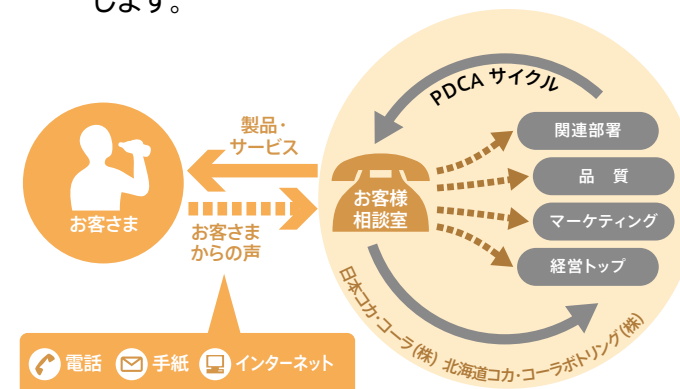
基本理念

私たちは、生活者やお客さまに「さわやかさと潤い」をお届けしたいと考えています。

お客さまとのコミュニケーションを大切にし、お客さまへ安全で安心できる製品、サービスを提供するとともに、お客さまの声を積極的に企業活動に活かし、地域のみなさまから「信頼され、認められる企業」を目指してまいります。

基本方針

- (1) お客さまの声を真摯に受け止め、公正、公平で透明性の高い対応を心掛けるとともに、迅速、適切に行動します。
- (2) お客さまとの大切なコミュニケーションの機会ととらえ、積極的な情報提供を行います。
- (3) 社会に対する責任を自覚し、関連する法的、倫理的な要求事項や自主的基準を遵守します。
- (4) お客さま満足の向上を目指して、常に最善を尽くします。



☎ 電話 ✉ 手紙 🌐 インターネット

日本コカ・コーラ(株)お客様相談室
サワヤカコーク
☎ 0120-308509 (土日祝祭日を除く 9:30~17:00)
🌐 URL <http://www.cocacola.co.jp>

地域とのきずなを大切にしています。



YOSAKOIソーラン祭りを応援

当社は、初夏の札幌を彩る「YOSAKOIソーラン祭り」をオフィシャルスポンサーとして応援しています。また、地元の札幌国際大学と協働し、「コカ・コーラ札幌国際大学チーム」として第3回から連続参加しており、2009年、2010年と2年連続でファイナルに進出しました。また「YOSAKOIソーラン祭り応援デザイン缶」の売上の一部を同組織委員会に寄付し、祭りを応援しています。



コカ・コーラ札幌国際大学チーム

北海道日本ハムファイターズを応援

2007年より、当社は「北海道日本ハムファイターズ」とスポンサー契約を結び、毎年、応援キャンペーンとイベントデー「コカ・コーラHAPPINESS GAME」を開催しています。また、2007年より、Qooが球団マスコット「B・B」と一緒に道内の幼稚園や保育園を訪問し、「ちゃんと食べよう体操」を通じて、子どもたちの食育を応援しています。



コカ・コーラ HAPPINESS GAME

地域の雪かきボランティア

2009年より当社従業員と札幌国際大学の学生たちが連携して、本社近隣の高齢者宅や道路の消火栓周りの除雪ボランティアを実施しています。



学生への教育支援活動

国際性豊かな青少年育成のため、英語の普及を推進する「高円宮杯日本中学校英語弁論大会」に1963年から協賛しています。また、「(財)コカ・コーラ教育・環境財団」の北海道支部として、学生に奨学金を支給する育英活動を行うとともにインターンシップの受け入れなどを推進しています。

「北の森レストランEARTH」がオープン

2010年9月、北海道立総合体育センター 北海きたえーる内に「北の森レストランEARTH」がオープンしました。この店舗は、札幌市円山動物園内の「ネイチャーカフェ・アース」の姉妹店として、「夢を創るレストラン」をコンセプトに、道産素材のメニューを多く取り揃えています。「森」をイメージした店内には、北海道日本ハムファイターズの選手や、サッカー日本代表・本田選手、五輪競泳の金メダリスト・北島選手のサイン入りグッズなどを展示しています。



ふるさとを大切にする美化活動に参加 積極的に地域の清掃活動や美化活動に参加しています。



本社裏のあしりべつ川の清掃・草刈・花植えに参加



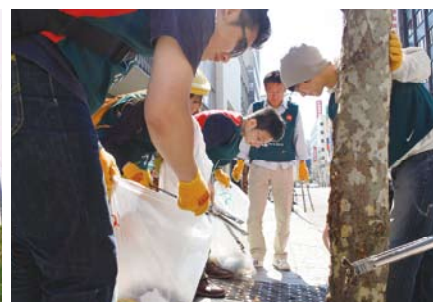
稚内市の海開き準備に参加



旧国道36号線沿いを地域の住民とともに清掃



釧路市消防団と合同で川沿いの清掃活動に参加



NPO法人「グリーンバード」と大通を清掃



登別市の道路美化活動に参加

Voice

会社、地域、従業員に
うるおいをお届けしたい

リテール事業部 釧路事業所
所長 田中 民一



2010年4月から、子どもたちの通学見守りボランティアに、釧路事業所の全従業員が毎朝交代で参加しています。これからも、地域に育ててもらった恩返しとして、町内会やNPO団体、他企業と協働して、地域



を元気にする活動に積極的に参加していきます。

子どもたちの通学見守りボランティア

ピンクリボン活動を応援

2010年5月、当社は乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切さを伝える「ピンクリボン運動の推進に関する協定」を(財)北海道対がん協会と締結し、「ピンクリボン自動販売機」の売上の一部が乳がん予防の啓もう活動に役立てられています。北海道のみなさまからの想いが、そのまま地域還元につながる「北海道モデル」の運用が実現できました。また、病気の子どものためのキャンプ「そらぶちキッズキャンプ」も応援しています。





これからも、ふれあいを
テーマに歩み続けます。

スポーツがつくる、素敵なふれあい

●コカ・コーラかけっこアカデミー

2010年8月、札幌市モエレ沼公園陸上競技場で、コカ・コーラ教育・環境財団との共催によるイベント「高野進先生に学ぼう!コカ・コーラかけっこアカデミー」が開催されました。会場では、3回の五輪出場経験を持つ高野進さんの指導のもと、小学生200名が走ることの基本と心得を学びました。



●スポーツフェスタin白旗山

2010年10月、白旗山競技場で「スポーツフェスタin白旗山」が開催されました。このイベントは、2007年から行われている清田区の記念事業で当社も毎年参加しています。当社ブースでは「空容器リサイクルゲーム」を実施し、子どもたちと分別について楽しく学びました。



空容器リサイクルゲーム

●清田区少年少女大なわとび大会

2010年11月、札幌市清田区体育館に区内の小学生約900名が集まり、「第13回清田区少年少女大なわとび大会」が開催されました。当社は大会スポンサーとして飲料を提供するとともに、Qooも参加して会場を盛り上げました。



「はこだてキッズタウン」を共催

2010年11月、函館市で「はこだてキッズタウン」が開催されました。このイベントは、市内の小学生が仮想のまちで様々な職業体験をしながら、社会の仕組みについて楽しく学んでいくもので、函館市と函館市教育委員会、当社が共催し、市内の16の企業・団体が参加しています。

コカ・コーラブースでは、子どもたちがお客さまの注文を聞く係、製品をコップに用意する係、呼び込み係、ゲームコーナー係などに分かれ、それぞれ一生懸命に仕事に取り組んでいました。



© 函館市青少年センター

森に学ぼう「アウト・オブ・キッズニア」

2010年8月、都会に暮らす東京の子どもたちが北海道の大自然のなかで学び・体験する「Out of KidZania コカ・コーラ森に学ぼう自然体験in北海道」を開催しました。子どもたちは、コカ・コーラの職業体験をしたのち、「雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス」に宿泊し、薪割りや川の生物調査などを通じて自然の大切さを学びました。



商品の陳列を行う子どもたち

旭川市120周年記念 「北の恵み 食ベマルシェ」に参加

2010年10月、旭川開村120周年記念事業として「北の恵み 食ベマルシェ」が開催されました。メイン会場の常盤公園では、Qooによる食育イベントをはじめ、北海道日本ハムファイターズを招いての「野球教室」などを実施しました。



当社従業員による食育ステージ

雪まつり缶の売上を札幌市に寄付

2011年2月に開催された「第62回さっぽろ雪まつり」では、大通・つどーむの両会場の販売ブースで、あたたかい飲み物を提供しました。また、北海道限定発売「さっぽろ雪まつり応援デザイン缶」の売上の一部を雪まつり実行委員会へ寄付し、雪まつりを応援しています。



オープニングセレモニー

Voice

札幌市を盛り上げていきたい。

法人営業部 法人第三課
地域連携プロジェクト
担当課長 柳谷 真一



札幌市とのパートナー協定のもと、さっぽろ雪まつりをはじめとする各イベントで、観光客をあたたくお迎えし、感動をしていただく工夫に



観光客へ様々なイベント情報を配信する「大通公園情報自動販売機」

ついて、意見交換し実施しています。

また、札幌市の子どもマップづくりやまちづくりにも参加し、札幌市を盛り上げる活動にも全力で取り組んでいます。

「地域のいま」を
みんなで考え、支えます。



北海道全域の防災パートナーとして

2006年12月、当社は道内全域をカバーする物流網を有することから、地域の飲料水備蓄基地の代行を柱として、道内全市町村を包括する「災害時における飲料の供給等防災に関する協力協定」を北海道と締結しました。この協定に基づき、「災害対応型自動販売機」を活用した各市町村との協働の取り組みを展開しています。また、地域の防災訓練に積極的に参加し、飲料物資の輸送訓練などに参加しています。



飲料物資の輸送訓練（札幌市）

警察との協働

●2011年2月、防犯ネットワークを全道に展開
安全・安心な地域づくりを目指して、北海道警察と協働で展開している電光掲示板付き自動販売機を活用した「防犯ほっとインフォメーション」の取り組みが、2011年2月全警察署で協定締結となりました。各道府県警の全所轄警察署とのネットワークは全国初となります。



釧路警察署との協定締結

●子ども防犯・交通アドベンチャー

2010年10月、若年層の防犯・交通意識の向上を目的に、函館西警察署主催の「こども防犯・交通アドベンチャー」が開催され、当社も参加しました。



子どもたちが、北海道警察のマスコットキャラクター「ほくとくん」からの指令書をもとに、会場内のブースを回り、防犯や交通安全について学ぶもので、今回が初の開催となります。当社ブースでは、「子どもの安全を見守る運動」や環境への取り組みなどを、楽しく紹介しました。

●犯罪被害者支援に協力

2010年7月、(社)北海道家庭生活総合カウンセリングセンターとの間で、道内の「犯罪被害者及びその家族又は遺族」に対する犯罪被害者支援活動を協働で行うための協定に締結しました。

これにより、全道の警察署に設置している自動販売機60台の売上金の一部を同センターの活動に役立てていただくほか、自動販売機に「被害者支援に関するポスター」を掲示していきます。

●警察と一緒に自転車盗難防止

2010年6月、北見警察署より、市内における自転車施錠の普及推進の依頼があり、北見市内の教育機関に設置している当社自動販売機に同署が作成したポスターを掲示しました。また、同署の担当者当社社員が共に啓発チラシを配布して、自転車施錠を呼びかけました。



まちづくりの応援

北海道内の5市（札幌市、旭川市、函館市、帯広市、釧路市）との間で、まちづくりに関する協定を締結し、電光掲示板付き自動販売機を活用した情報配信などで応援しています。

●札幌市との協定

2009年1月、札幌市及び清田区との間で「さっぽろまちづくりパートナー協定」を締結し、電光掲示板付き自動販売機を活用した「きよっち情報ステーション」を推進しています。また、2010年9月に「さっぽろ食の安全・安心推進協定」を締結、地産地消を応援するため「Qoo(クー)」が札幌市食育特別大使に任命され、札幌市保健所が主催するイベントに積極的に参加しています。



2010年6月には、札幌市で開催された「APEC貿易担当大臣会合」において、同会合のカーボンオフセットの取り組みに、クレジットを購入する



ことで協力しました。この取り組みは会議の期間中、会場内で発生するCO₂量を道内の風力発電や家庭におけるバイオマス燃料等の活用による削減量でオフセット(埋め合わせ)するものです。

●帯広市との協定

2010年9月、帯広市と「協働のまちづくりに関する基本協定」を締結しました。帯広市は「環境モデル都市」として、低炭素社会の実現に向けて温室効果ガスの大幅削減を目指しています。今後はソーラーパネル自動販売機の集中的な展開をはじめ、バイオディーゼル燃料の利用促進を進めていきます。



●釧路市との協定

2010年、釧路市と「釧路市民とともに進めるまちづくりに関する協定」を締結しました。これにより、「市民活動センターわっと」と協働し、行政情報や地域情報を電光掲示板付き自動販売機から配信していくほか、「氷都・釧路」のシンボルであるスケート競技を応援しています。



全道に広がる、安全と安心のネットワーク

身近なところでお役に立てるよう努めています。



道内自治体・行政機関などを通じ、さまざまな場面で地域のみなさまのお役に立つよう努めています。

- 防災協力自動販売機 (144自治体・行政機関 443台)
- おしらせ道ねっと (93自治体・行政機関 99台)
- 防犯ほっとインフォメーション (69警察署 364台)
- 地域情報ネットワーク運用地域 (6自治体・行政機関 68台)
- は、今後協定締結予定です (2011年2月末現在)



防災協力自動販売機
防災情報や災害情報、地域情報などを配信するほか、災害発生時には自治体の判断で自動販売機内の飲料を無料提供します。



防犯ほっとインフォメーション
防犯広報や身近な犯罪情報、事件情報などを配信します。



おしらせ道ねっと
道路利用者の方々に道路情報や地域情報を配信するほか、災害発生時には自治体の判断で自動販売機内の飲料を無料提供します。



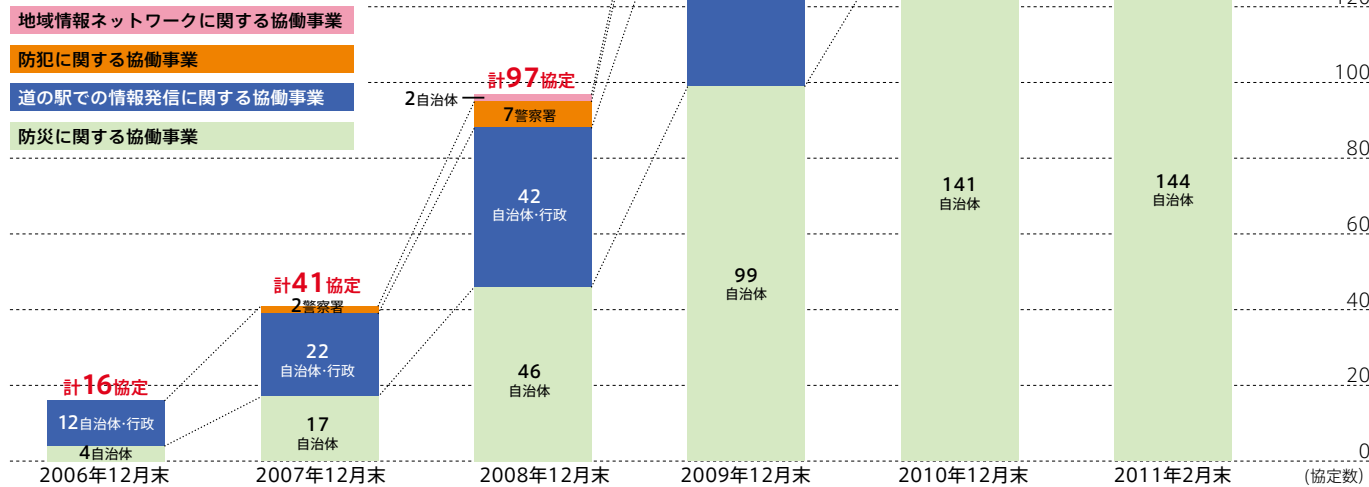
地域情報ネットワークの取り組み
地域のみなさまや当地を訪れる方々へ、まちの魅力や行政情報・観光情報などを配信します。

全国地域安全運動で一斉配信

2010年の「防災週間」、また「地域安全運動」では全道に展開しているすべての電光掲示板付き自動販売機から、防災や防犯に関する情報を同時刻に一斉配信し、地域のみなさまに安全と安心を呼びかけました。



自治体・行政・警察署との協定状況



健全で透明性の高い
事業活動のために。

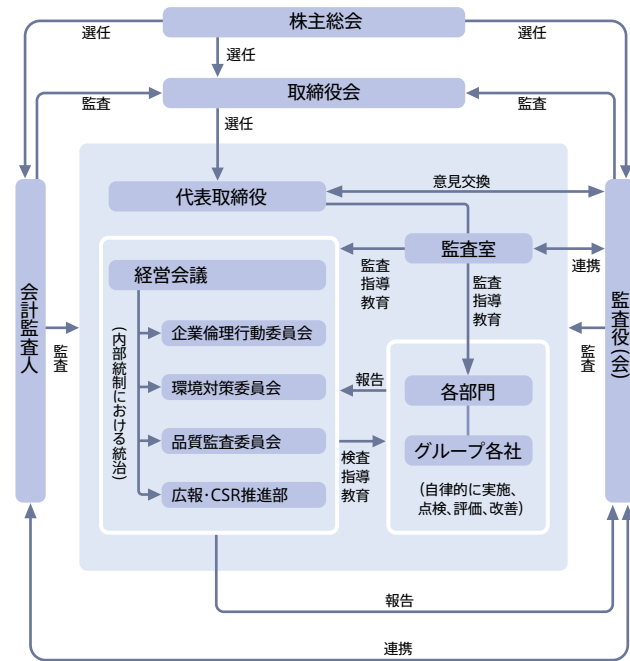


企業としての社会的責任を果たす

コーポレート・ガバナンス

企業倫理とコンプライアンスの重要性を認識し、企業の社会的責任(CSR)を果たすことを経営上の最も重要な課題の一つと位置づけています。お客さま、株主・投資家のみなさま、お取引先さま、社員など、さまざまなステークホルダー(利害関係者)と良好な関係を築くとともに、的確な経営の意思決定、それに基づく業務遂行、適正な監督・監査を可能とする経営体制を構築し、総合的にコーポレート・ガバナンスの充実が図られるよう努めています。

コーポレート・ガバナンスおよび内部統制の模式図



内部統制システム

会社法の施行にともない「業務の適正を確保するための体制の基本方針」について取締役会決議し、併せて北海道コカ・コーラボトリンググループの内部統制システムの強化と、社会的信頼の獲得に資す

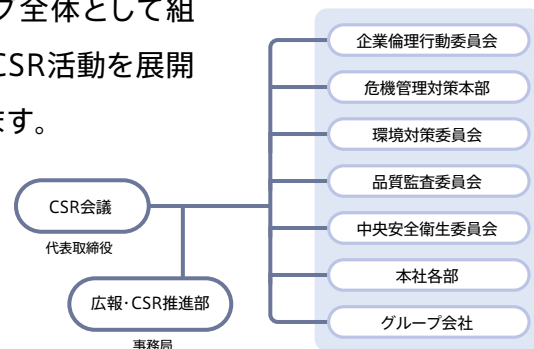
ることを目的とした「北海道コカ・コーラボトリンググループコンプライアンス管理基本規程」を制定しました。また、ステークホルダーに対する適切な情報開示とグループ経営基盤強化の一環として、金融商品取引法に対応するための「内部統制の基本方針書」も制定し、財務報告に係る内部統制の適切な整備・運用および、その評価・報告を毎期継続して行うことに努めています。

危機管理体制の強化

当社は、天災・製品事故等が発生した際の対応手順である「危機管理マニュアル」を制定すると同時に、危機管理対策本部・品質監査委員会などの設置によってリスク管理体制を構築しております。また、コカ・コーラシステムの危機管理システム(IMCR)との連携や研修等を通じ、リスク管理対応力を強化しています。

CSR会議の定例開催

CSR経営を推進するうえでの現状分析と課題の抽出に取り組み、地域に貢献する企業市民として適切な活動ができるよう、各委員会や本社各部門・グループ会社で構成する「CSR会議」を定例開催し、グループ全体として組織的なCSR活動を展開しています。



企業倫理活動への取り組み

良き企業市民であり続けるために、1997年12月に設置した「企業倫理行動委員会」のもと、企業倫理活動を推進しています。また、従業員が上長などに相談しにくい場合の相談窓口として匿名性の確保と相談内容の機密保持に万全を期した「オープンルーム」を運用しています。

個人情報の保護について

お客さま・お取引先さまをはじめとする個人情報の重要性を認識し、2005年4月に完全施行された個人情報保護法を遵守するため、個人情報保護ポリシーおよび個人情報保護規程を制定するとともに、eラーニングなどの社員教育やITセキュリティの強化など個人情報の保護にグループ全体で取り組んでいます。

出発前のIT点呼

幸楽輸送(株)では、遠隔地においてもITを活用した点呼を実施し、運転免許証の確認を行うほか、医療用血圧計を連動させ、血圧の記録を送信・管理することで従業員の健康管理に取り組んでいます。

休業支援の取り組み

仕事と家庭生活の両立を図ることを目的に「育児・介護休業法」の定めに基づいた、育児休業制度、介護休業制度、子どもの看護休暇、所定労働時間を最大3時間短縮する育児短時間勤務制度のほか、所定外労働時間の免除、育児のための時差勤務制度を設け、安心して働くことのできる休業支援体制を整備しています。

障がい者の雇用について

障がい者の雇用率は2.6%と法定雇用率(1.8%)に達しています。これからもハローワーク等の求人活動を通じて、積極的に障がい者雇用を実現していきます。

応急手当協力施設の証

緊急時の対応に備え、これまでに本社構内で延べ51名の社員が普通救命講習を修了し、救命技能士として認定され、札幌市清田消防署より「応急手当協力施設の証」をいただきました。

Voice 考働力の育成のために

総務人事部 人事課
西 賢吉



私は社内研修の企画・運営を担当しています。社員一人ひとりが地域やお客さまに支持していただけることを目標に、会社と社員が共に成長していくため階層別・職種別の研修を実施しています。特にこれからは、「自ら考え動く(考働する)」人材、すなわち「自律型人材」の育成に力を入れていきます。



社内研修

安全・安心な「コカ・コーラ社製品の
できるまで」を是非ご見学ください人と地域をうるおす
活動を続けています。

当社では創業以来、工場見学を実施しています。

工場見学では、徹底した衛生管理のもと製造されるコカ・コーラ社製品の製造工程に加え、昔懐かしい自動販売機、環境・地域との取り組みなどを案内員がわかりやすく紹介しています。

2010年は17,726人のお客さまにお越しいただき、「子どもたちにもわかりやすい説明だった」「大人になってからの工場見学は子どもの頃とは一味違って興味深かった」という感想が寄せられました。

近年では、社会見学、修学旅行に加え、大人のお客さまにも多くご来場いただいていることから、年代に応じた説明内容で、みなさまにご満足いただけるプログラムになっています。

お取引先さま、お得意さまにおかれましても高品質なコカ・コーラ社製品の製造工程を是非ご見学ください。

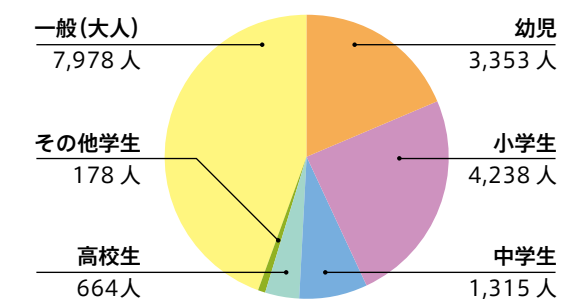


わくわくコミュニケーションルームでのVTR上映

<ご来場者さまの声>

- ◎子どもだけでなく、親の世代も楽しめる見学だった。
- ◎施設内どこを見ても迫力があって、子どもも真剣に飽きることなく見ていて面白かったです。
- ◎環境を考えた工場や、配送システムが勉強になりました。
- ◎清田住民として、清田の水を使っていることが少しうれしく思いました。
- ◎衛生的な優れたシステムで製造されていて感心しました。
- ◎いつものコカ・コーラをより身近に感じた。
- ◎普段何気なく飲んでいますが、製造過程を見て、製品に対する見方がかわりました。

ご来場者内訳 (2010年)



沿革

1963年 1月	北海道飲料株式会社として設立
3月	コカ・コーラおよびファンタの販売を開始
9月	商号を北海道コカ・コーラボトリング株式会社に改称
12月	本社工場竣工(製品第1号誕生)
1965年10月	コカ・コーラ250ml 缶の販売を開始
1966年 4月	コカ・コーラホームサイズ(500ml)の販売を開始
1967年12月	本社工場に第2ラインを増設
1970年 3月	本社工場に第3ラインを増設
1971年 5月	本社工場に第4ラインを増設
10月	スプライトの販売を開始
1972年 2月	コカ・コーラ350ml 缶の販売を開始
11月	第11回冬季オリンピック札幌大会に全面協賛、支援 本社工場に缶ラインを増設し、缶製品の自社生産を開始
1973年 4月	東北満庵株式会社と合併、株式の額面金額を変更
8月	株式を東京証券取引所市場第2部および札幌証券取引所に上場
1976年 4月	ジョージアコーヒーの販売を開始
1982年 4月	機能性飲料 リアルゴールドの販売を開始
1983年 5月	スポーツ飲料 アクエリアスの販売を開始
1988年10月	本社ビル竣工(創立25周年記念事業)
1991年 4月	カナダドライジンジャーエールの販売を開始
1992年 3月	ティー飲料 紅茶花伝の販売を開始
1994年 3月	ティー飲料 爽健美茶の販売を開始
1998年 3月	ティー飲料 煌の販売を開始
1999年 5月	創業以来10億ケースの販売を達成
7月	ダイエットコカ・コーラの販売を開始
11月	果汁飲料 Qooの販売を開始
2001年 6月	紙パック製品(プリパック)の販売を開始
2002年 5月	日韓共催のサッカーワールドカップに全面協賛、支援
11月	本社工場に立体自動倉庫を新設
2003年 1月	本社工場に無菌充填ラインを増設
2005年 1月	本社工場を札幌工場に名称変更
3月	札幌工場リニューアル ティー飲料 一(はじめ)の販売を開始
2006年 3月	コカ・コーラ社製品の製造を行う「北海道コカ・コーラプロダクツ株式会社」を設立
5月	コカ・コーラ生誕120周年
7月	ティー飲料 からだ巡茶の販売を開始 「子どもの安全を見守る運動」を開始
2007年 2月	全社で「ISO9001:2000」の認証を取得
6月	コカ・コーラゼロの販売を開始
2008年 5月	「ジョージア サントスプレミアム北海道限定デザイン缶」の売上金の一部を北海道へ寄付
7月	札幌市円山動物園に「nature cafe EARTH(ネイチャーカフェ・アース)」を出店
2009年 5月	ミネラルウォーター「いろは・す (I LOHAS)」の販売を開始
2010年 2月	札幌工場サイトにて「ISO14001:2004」の認証を取得

会社の概要

商号	北海道コカ・コーラボトリング株式会社 HOKKAIDO COCA-COLA BOTTLING CO.,LTD.
設立	1963年1月24日
代表者	代表取締役会長 角野 中原 代表取締役社長 矢吹 健次
本社所在地	〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号 TEL(011)888-2001(総務人事部)
資本金	29億3,515万4千円
従業員数	504名(グループ1,114名)(2011年1月末日現在)
事業の概要	北海道を販売地域とした清涼飲料の製造および販売
事業所	本社、札幌工場、営業拠点(22)
決算期日	毎年12月31日(年1回)
上場証券取引所	東京証券取引所市場第2部、札幌証券取引所

グループ会社の概要

北海道コカ・コーラプロダクツ株式会社	清涼飲料水及び飲料水用容器の製造 各種自動販売機の修理、設置及び撤去
北海道ベンディング株式会社	自動販売機による飲料、食品等の販売
幸楽輸送株式会社	コカ・コーラ社製品の工場・営業所間の輸送、一般貨物輸送、倉庫業
北海道サービス株式会社	一般事務処理業務、CD・ビデオの販売・貸付、書籍等の販売、事務機器等のリース、清掃業、損害保険代理業

企業集団の財産および損益の状況の推移

区分	第47期 (2008年)	第48期 (2009年)	第49期 (2010年)
売上高	71,731 百万円	62,828 百万円	63,043 百万円
経常利益	417 百万円	△479 百万円	1,357 百万円
当期純利益	41 百万円	△529 百万円	1,375 百万円

ツアーのご案内 (所要時間 約60分)

冷えたコカ・コーラと記念品をご用意していますので、
みなさまのお越しをお待ちしています。お客さまの声にお応えし、
7~9月は土日でも
見学いただけます。概要説明
15分製造工程
立体自動倉庫見学
25分ビデオ上映
20分工場見学の
お申し込み方法工場見学はあらかじめお申し込みが必要です。
直接お電話またはお手紙でご予約ください。■見学できる時間 毎週月曜~金曜日(午前10:00~12:00・午後1:30~4:00 祝祭日も可)
※祝祭日は一部休みの日もあります。 ※7~9月は土日でも見学いただけます。

■所要時間 約60分(ご要望に応じて調整することができます。)

■場所 札幌工場 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号

お申し込み・お問い合わせ **011-888-2100** (広報・CSR推進部) 広報課